

令和元年度 地域課題対応人材育成事業
「地域コアリーダープログラム」
オランダ王国 派遣報告会

社会福祉法人真誠会

中田 純平

CONTENTS



1. 地域コアリーダープログラムとは
2. 団テーマ・個人テーマ
3. オランダとは
4. 団テーマに基づいた派遣国活動の報告
5. オランダでの学びと考察・今後の活動
6. NPOマネジメントフォーラム

1. 地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」とは？

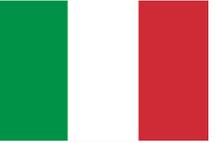
- 内閣府が主催する6つの青年国際交流事業のひとつ。共生社会政策国際交流担当室の管轄
- 参加者は23～40歳。高齢者、障害者、青少年に関する非営利団体で働き、現在団体運営に携わっているまたは今後携わる意欲のある若手リーダー
- 派遣事業と招へい事業の二部で構成
- 若手人材の専門知識とマネジメント能力の向上、国内・国際ネットワークの構築を通じて、「共生社会」の実現を目指す



青年8名と団長1名、計9名を各国へ派遣

 高齢者分野：**オランダ王国**

高齢者の自立支援に必要な連携

 障害者分野：**イタリア共和国**

地域における障害者の社会参画の更なる拡大

 青少年分野：**フィンランド共和国**

子供・若者の育成支援に関わる人材の養成

社協
社会福祉士
島根県

NPO
作業療法士
京都府

福祉理美容
美容師
愛知県

社協
社会福祉士
島根県



デイケア
作業療法士
大阪府

デｲｰﾋﾞｽ
介護福祉士
鳥取県

養護老人ホーム
理学療法士
静岡県

特養
団長
静岡県

病院
作業療法士
熊本県

派遣プログラムの流れ

事前研修(7月)

自主研修(8~10月)

出発前研修(11月)

派遣活動(11月)

帰国後研修(11月)

報告書作成(12月~2月)

NPOマネジメントフォーラム

事後活動研修

全国大会

ブロック
大会

事後活動

派遣
報告会等

地方
プログラム

IYEO等を通じた
社会貢献活動

自主研修（9月21日～22日）in大阪

- 日本の制度やしきみ等について団員ごとにプレゼン
- オランダの取組み（訪看）について
- 派遣前の準備作業
- 懇親会



自主研修：ZOOM会議（10・11月）



「ZOOM」アプリを使用し、オンライン会議（計6回）

【内容】

- 訪問先の下調べ（分担し調べて発表、質問事項の検討）
- 海外でのシンポジウム資料の作成
- 派遣に必要な物品、準備物等の確認 など



2. 団テーマ・個人テーマ



● オランダ団テーマ

オランダ王国における多様性に富んだ共生社会のあり方を学んで、地域や人とのつながりのなかで高齢者も自己決定ができ、その人らしく暮らせる社会を目指す。



● 個人テーマ

高齢者が安心してケアを受けられる体制や、孤立を防ぐための施設環境、ネットワーク作りなどを学び、
地域で自立した生活を送れ、
社会から孤立させない地域
(環境)を作りたい」



3.オランダとは



オランダについて



- 人口：1,738万人（東京の1.2倍）
- 宗教：カトリック・プロテスタント・その他
- 面積：4.2万km²（九州とほぼ同じ）
- GDP：914.5億ドル（日本4,971兆ドル）
- 高齢化率：19.17%（日本27.47%）
2014年、65歳以上の高齢者が200万人突破
- 1940年、50年代は高齢者向けの施設増設
- 2013年、国王が福祉国家から「市民参加型の福祉」を提供
- 病院を外しての高齢者福祉予算は国で150億€
- 移民：人種の種類が世界第一位
- 農業・花卉業・自転車・スポーツ（サッカー、スピードスケートetc…）

オランダの国民性

➤ 教育

語学⇒小学校からオランダ・フランス・ドイツ・英語を習得

多様性と自主性⇒宗教・死生感・政治をディスカッション

教育システム⇒イエナプラン

➤ 寛容性⇔多様性

合法⇒大麻・売春・安楽死

多様性⇒LGBTQ・宗教・国籍・

ワークライフバランス・移民難民・

パートナーシップ



➤ 歴史的背景

水害⇒国土の1/4が海拔0m以下で昔から水害との戦い、街の中は川や水路で水を流し、乾いた土地に住居を建てた。

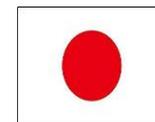
移民⇒1984年オランダの植民地だったインドネシアからの移民が増加し、その後各国から移民を受け入れた、他文化共生社会。

貿易⇒東インド会社設立、水路を利用し世界の貿易の窓口としてオランダは経済が繁栄。





オランダと日本の制度比較



オランダ

Wet Maatschappelijke Ondersteuning (WMO)

- ▶ 住宅改修、福祉用具、福祉政策、ホームヘルプ（家事支援）など

Wet Langdurige Zorg(WLZ)

- ▶ 長期ケア（入所、在宅）：
看護、ADLケアなど

Zorgverzekeringswet(ZVW)

- ▶ 医療保健：入院は1年間
- ▶ 保険制度：加入が必須

日本

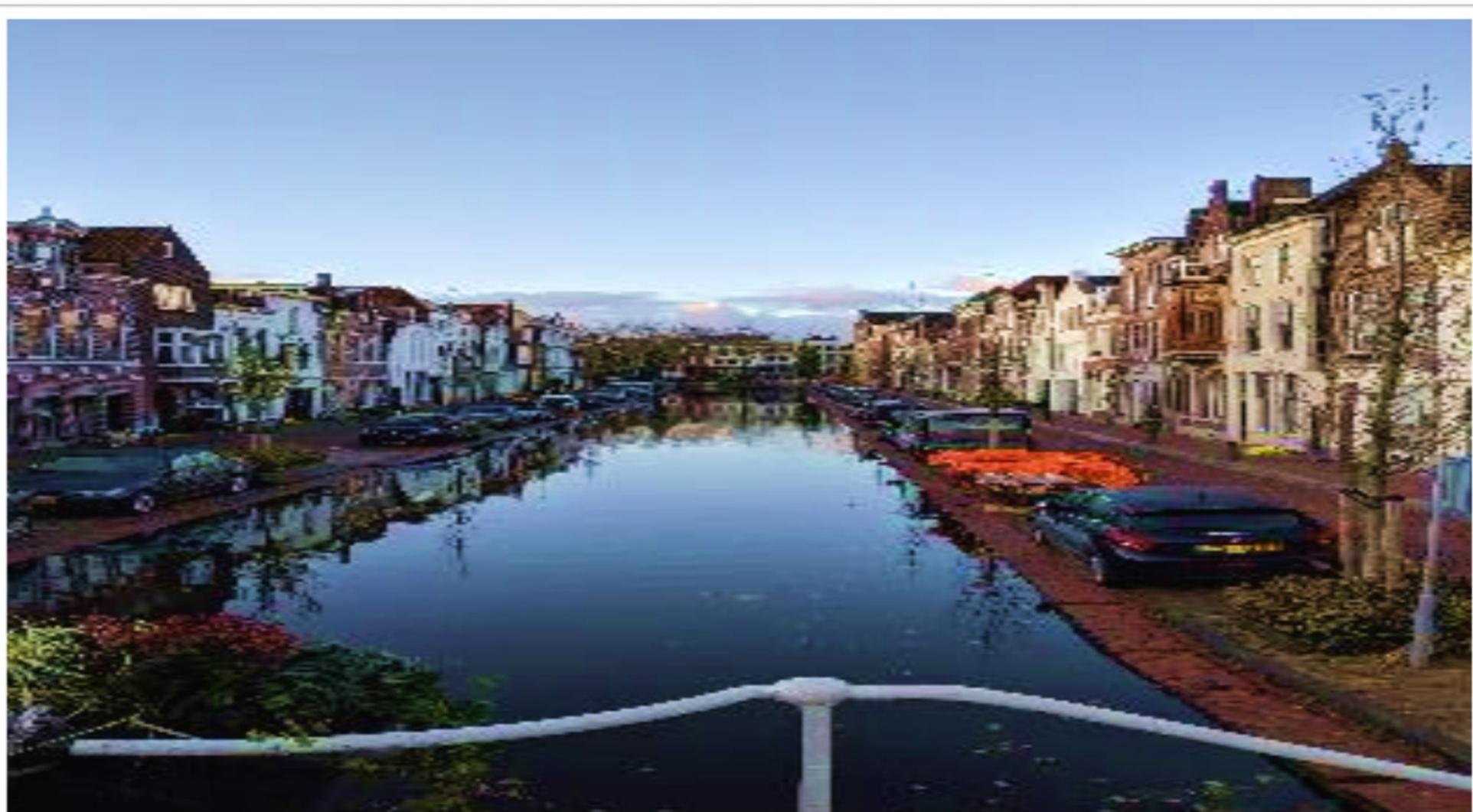
介護保険・障害者総合支援法

- ▶ 住宅改修、福祉用具、福祉政策、ホームヘルプ
- ▶ 長期ケア（入所、在宅看護、ADLケアなど）

国民健康保険 & 後期高齢者医療制度

- ▶ 医療保健
- ▶ 保険制度：加入が必須

4.団テーマに基づいた派遣国 活動の報告





オランダでの視察先

月日	No.	対応団体	内容
2019/11/18	1	フンディス・ホールディングス	高齢者向けヘルスケア団体
	2	アンボ高齢者ユニオン	高齢者の利益を代弁する会員制組織
	3	ナイジェローデ・ビジネス大学	学術教育機関／ヘルスケア制度について
	4	ヴィランス	介護保険に関する国の研究機関
2019/11/19	5	フィアシュトローム	在宅介護に関するケアや支援を提供
	5.5	ケアファーム	
	6	在オランダ日本大使館	
2019/11/20	7	ローゼントウイン高齢者施設	ウエル・トウイスが運営する入居施設
	8	ウエル・トウイス	困難や慢性的疾患を抱える高齢者に対して居住施設を提供する入居型センター
	9	パレート・ウェルズイン	インフォーマル介護の提供者に対する能力開発や、地域住民の孤立を解消するため取り組む。
	10	ヘルプ・トウイス	社会支援制度（WMO）を利用した家事援助の提供事業
2019/11/21	11	ヴィヴァルディ・ズーテルメール	認知症や障害を持った高齢者が入居する大型入居施設
2019/11/22	12	アムスタ	サポートを必要とするあらゆる人を対象に介護を提供

派遣スケジュール（11月15日～17日）

訪問日程	訪問先（アムステルダム）	団体概要
11月15日（金）	成田発（KL862便）11時25分／アムステルダム着 15時30分	
11月16日（土） 11月17日（日）	アムステルダム市内視察	

ボートツアー



フンデイス・ホールディングス

22の団体を傘下にもつ高齢者向けヘルスケア事業団体。ハウダ近郊を中心に事業を展開する。

ネットワーク型のヘルスケアサービス事業団として、国内でも珍しい組織ガバナンスの形態をとる。



ランチをしながら、
各組織の理事の方々と歓談



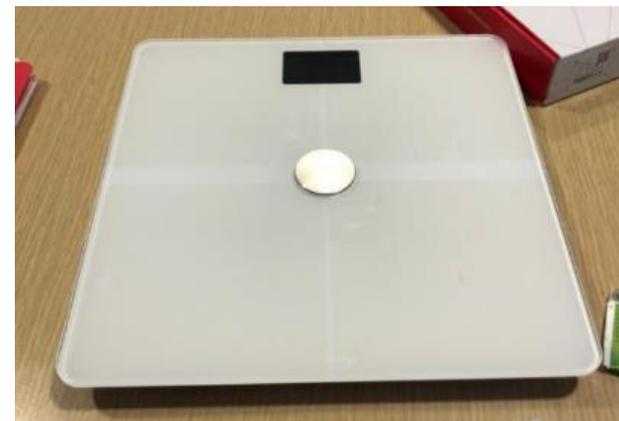
二 フィアシュトローム

在宅介護に関するケアや支援を提供し、入居施設の運営のほか家事手伝いなど様々な支援を提供する。

「Lea」という電動歩行器。一緒にダンスできたり、ブレーキが自動にかかる。



患者が体重、血糖値などを測ると、Drや訪看のネットのカルテに記載される。



ローゼントウイン 高齢者施設

入居者は個別の洗面所やバルコニー
つきの部屋が提供されるほか、コモ
ンスペースでの歓談も可能。
全部で48部屋と6つの談話室が設備
されており、認知症の入居者もいる。



ケアファーム（農福連携）

ケアファームとは、「ケア（介護）」+「ファーム（農場）」
認知症や精神疾患を抱える人、発達障がいのある子どもたちなどにデイサービスを提供する農場。さまざまな利用者が緑豊かな環境の中で一緒に1日を過ごしている。

オランダに1400カ所のケアファーム



パレート・ウェルズイン

インフォーマル介護の提供者に対する能力開発や、地域住民の孤立を解消するため取り組んでいる団体。

75人のスタッフ、80名のボランティア

- ・自身で社会に参加するための活動支援
- ・高齢者、ボランティア、労働市場から離れた人と密に連携
- ・地域のレストラン・アクティビティーセンターとしても機能



孤立させ
ない
居場所



ヘルプトウイス

社会支援制度（WMO）を利用した家事援助の提供事業。掃除や介助、相談のほか、買い物の同行など様々なサービスを展開。

オランダ中央地域の自治体と連携し、高齢者が住みなれた環境で長く自立した生活を営むことを目指す。



■ アムスタ

知的障害を持つ高齢者、認知症高齢者、精神疾患、コルサコフ症候群など、サポートを必要とするあらゆる人を対象に介護を提供。



アムステルダム市内に30の支援施設を持ち、クライアントや支援者を含めLGBTQやメンタルヘルスに関する課題など、多様なバックグラウンドを持つ人々が集まる。





シンポジウム開催

(プログラム)

- ・Fundisによる日本視察プログラムの報告
(2019年10月25日～30日)
- ・基調講演
【持続可能な高齢者介護に向けて】
- ・ペピン・ヴァン・ハウウェリンゲンによる
基調講演【日本の少子高齢化】
- ・オランダ派遣団によるプレゼンテーション
 - 1、日本の少子高齢化に伴う課題と対応
 - 2、介護とテクノロジー
 - 3、オランダでの学び(パネルディスカッション)



fundis

ホームステイ(マルティン&ハンネケ)



5.オランダでの学び・今後の活動



オランダでケアが必要になったら…

- 0-line care:
家族, 近所の方、ボランティアなど（非専門職；無報酬）
"mantelzorg" = 地域の人々の力（共生社会）
- 1st-line care:
自由にアクセス可能な地域の中のケア
（家庭医、栄養士、ホームヘルプ、地域・訪問リハなど）
社会的処方箋の始まり（2015年以降）
- 2nd-line care:
外来・日帰りの専門医治療（<24時間）
救急治療以外は、自由のアクセスが不可能
第1線の医療従事者（家庭医など）の処方が必要
- 3rd-line care:
>24時間以上の入院・入所のケア

mantelzorgとは

親類や友人、近所の人が長期的に提供するケア



オランダの4人に1人が
従事

定義

3ヵ月以上にわたり8時間以上ケアする

背景

高齢化により介護サービスへのニーズが高まり、介護給付増加、財政赤字

※もともとあったものを促進するために、2007年に自治体のサポートセンター機能の強化、本格化される。
現在はmantelzorgに感謝する日もある

視察から確認できたこと（学び）

- ①日本と同様高齢者はできるだけ長く自宅で生活できること
- ②社会との繋がりの中で生き生きした生活が送れること

- ・ 視察から、提供するサービス(ケア)に関しては、日本と変わりはありませんでした。テクノロジー、介護ロボット等の活用は日本を参考にしていた。
- ・ 地域に目を向けると、地域の中の専門職(家庭医・地域看護師)や暮らしている地域の一人ひとりの役割(マンタルケア・ボランティア)が明確である。そのネットワークの構築もあり、地域の互助の力が大きいことが高齢者が地域でくらしつくり続けることの要因になっている。
- ・ 個別のニーズに合わせた社会資源・サービスの活用がその人にとっての「やりがい」「生きがい」に繋がる。
- ・ 住民が集える場所、「居場所」の存在が地域からの孤立を防ぐことに必要となる。



具体的な事後活動の計画



- 自身の職場、職能団体、地域で働く介護・医療スタッフ、地域住民、NPO団体、行政での伝達会
- 大学での特別講義
- コミュニティ放送（ラジオ）での情報発信
- 地域づくりの調査・研究
- 地域における国際交流活動への参加
- 地域のボランティア活動に参加する
- 地元の地域福祉計画に参画する
- 団員間、他団員、オランダの方々など、今回派遣を通じてできたネットワークを活かしていく

6.NPO マネージメントフォーラム

2019年度 地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」
FY2019 Community Core Leaders Development Program
NPO マネジメントフォーラム
NPO Management Forum

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

一般財団法人青少年国際交流推進センター
Center for International Youth Exchange



目的

- 「NPO マネジメントフォーラム」は、高齢者・障害者・青少年関連の非営利分野で活躍する日本と諸外国の若手リーダーが一堂に会し、各国の非営利分野事情や活動事例に基づく有益な情報を共有するため合宿型の国際フォーラムである。事例共有等に基づく意見交換を行い、非営利団体の運営に関する考え方や視点を共有し、対話を通じて実践的能力を向上することで、各地域での社会活動を支え、共生社会の実現に向け中心的な担い手となる青年リーダーの育成を目指す。
- 本年のNPO マネジメントフォーラムでは、高齢者・障害者・青少年分野の若手リーダーや活動家が、日本とイタリア、オランダ、フィンランドから参集する。

ディスカッショントピック

- トピック1

「新しい連携・ネットワークで創造する共生社会」

- トピック2

「共生社会を支える多様な人材の活躍促進」

- トピック3

「政策決定・政治参加」



**分野を横断したディスカッション！最後に出た答えは「対話」！
分野を越えて、地域を越えて、国を越えて！**



DIAMOND FACTORY
FROM THE MINE TO YOUR FINGER



D a n k J e W e l !